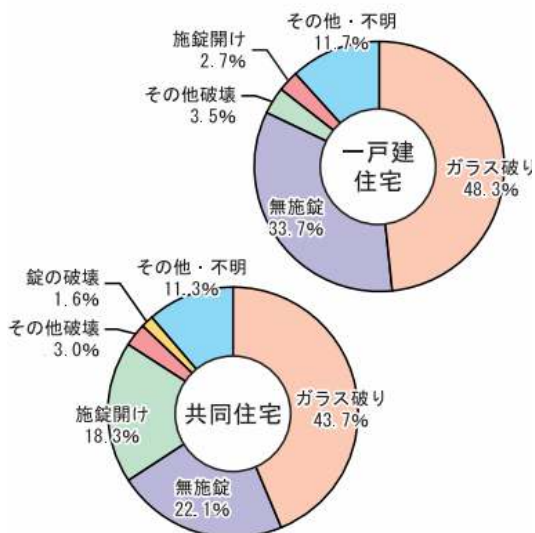


防犯コラム01 「昨今の犯罪情勢」



我国の刑法犯の認知件数は、平成14年をピークに下がり、平成18年は、205万件となっています。一方、検挙率は上がり、31%程度まで回復しています。しかしながら、まだまだ予断は許さず、侵入犯罪においてはなんと2分34秒に一件も発生している状況です。その内、なんと60%を住宅への侵入が占めています。

侵入窃盗の侵入手段



手口としては、ガラス破りが最も多く、ついで無施錠が続きます。

一方、体感治安と呼ばれる言葉があります。体感治安とは、アンケートなどにより、国民の治安に対するイメージを統計調査した物です。法務省や野村総合研究所などから様々な調査報告が出ていますが、それによれば、実際には、犯罪は減っているにもかかわらず50%~80%の人が「治安が悪くなっている」と感じています。

主観になりますが、昨今の犯罪情勢は「プロ型」と「軽率型」の2極化しているように思います。まず爆盗団※1や資材泥棒※2に代表される組織的で計画的なプロによる犯罪です。

- ※ 爆盗団・・・宝石店や百貨店などを狙う。壁が隣接する建物において、油圧ジャッキなどを使い、壁を破壊し、侵入する手口。
- ※ 資材泥棒・・・金属の高騰などにより屋外に置かれた鉄骨や配線を盗むこと。

次に軽率型ですが、実は、防犯カメラやタゲ+ゲートによる万引き防止システムの増加により、万引きがしにくくなったと言われています。そこで、比較的若い世代で遊ぶ金欲しさで犯行を行っていた不良が、安易な空き巣や置き引き、ひったくりを行っているというケースです。

いずれにしても、犯罪は、思いの他、身近であり、自分自身、あなた自身がいつ被害者になってもおかしくは無いのです。